論　文

中国語の「補語」について

高橋弥守彦（大東文化大学名誉教授）

Concerning Chinese “*Complements*”

Yasuhiko TAKAHASHI

内容提要

根据学者的不同，现代汉语语法的补语可分为3-6类不等。对补语进行定义很难，由于所指内容较多，因此我们外国人深感困惑。本文在先行研究的基础上，通过大量的实际例句，从句子成分的体系出发，再次探讨什么是补语，并在明确其定义的同时，浅显易懂地对补语进行重新分类。

キーワード：文成分の体系　補語　客語　述語の機能的な意味側面　客体

目次

0．はじめに
1．先行研究における補語
2．補語の再検討
3．おわりに

0. はじめに

文は一般に主語・述語・客語・限定語・状況語・補語の各文成分に分析できる。それぞれの文は、文構造により、この6類の文成分からできている場合もあれば、このうちのいくつかの文成分からできている場合もある。

この6類の文成分は文のなかで体系を作っている。文成分の体系から言えば、一般に主語は述語に説明される文成分であり、述語は主語を説明する文成分である。補語は述語を補足説明する文成分であり、述語は補語に補足説明される文成分である。述語の対象として客語があり、「述語＋客語」あるいは「述語＋補語＋客語」により出来事を表す。状況語は述語を修飾し、述語は状況語に修飾される。限定語は主語や客語を限定し、主語や客語は限定語に限定される。

（1）“好！走！”**张大妈将**一箱肥皂背上了肩。（『人民』89-9-99）
「まかしといてくれ、それじゃ行こうか」張おばさんは、石けんがつまった段ボール箱をひとつ、ひょいと肩にかつぎあげた。（同上）

（2）妻子的担心不是没有一点道理。（『人民』97-10-75）
妻の心配ももっともだった。（同上、97-10-74）

（3）他**们约**好了在**这**里相**见**，他就一**直这样**在**这**里等她**归**来。（『人民』96-12-85）
ここで会う約束をしたので、ずっと彼女の帰りを待っているのよ、きっと。（同上、96-12-84）

例（1）の下線部“好”“走”はともに一語文で、前者が形容詞述語文、後者が動詞述語文である。（2）の“妻子的担心不是没有一点道理”は「主語“妻子的担心”＋述語“不是”＋客語“没有一点道理”」構造であり、主語が名詞連語「名詞“妻子”＋構造助詞“的”＋動詞“担心”」、述語が否定義を表す拡大動詞「副詞“不”＋動詞“是”」、客語が選択連語「否定義を表す拡大動詞“没有”＋名詞連語“一点道理”」からできている。（3）の“他**们约**好了在**这**里相**见**”も「主語“他**们**”＋述語“**约**好了”＋客語“在**这**里相**见**”」であり、主語が代詞“他**们**”、述語が形容詞連語「動詞“**约**”＋形容詞“好”＋動態助詞“了”」、客語が拡大動詞「“**在这**里相**见**”」からできている。文成分は単語“好、走、他**们**”や拡大動詞“不是、在**这**里相**见**”の場合もあるし、連語“妻子的担心、没有一点道理、**约**好了”の場合もある。

文構造から言えば、述語の後には補語（例 3 の“好”）や客語（例 2 の“没有一点道理”）が用いられる。文成分の体系から見れば、補語は述語を補足説明する文成分であり、客語は述語の対象となる文成分であり、述語とともに出来事を表す。補語と客語は異なる内容であるが、両者はともに述語の後に用いられるので、補語と客語をどのように定義するかにより、実際には分類が難しい場合もある。このことにより、補語の種類も補語に対する研究者の観点により異なる。これらを踏まえて、本稿では文成分の体系から補語の定義と種類を再検討する。

1. 先行研究における補語

李臨定（1993：51）は補語を「動詞あるいは形容詞の後に位置し、動詞あるいは形容詞を補充、説明する部分を補語という。」と定義している。

この定義に基づき、李臨定（1993：153～203）は、補語[1] を数量補語、方向補語、結果補語、“得”字補語、“个”字補語、介詞連語補語の 6 類[2] に大別している。また李臨定は、以下のように、これらの補語を用いて作る文を項目ごとに挙げている。

---

1) 相原茂など（1996：233）は補語を「このように、形容詞や動詞の後ろに置かれ、その動詞や形容詞の表す性状・動作・行為についてより具体的な補充情報を後ろから加える成分をいいます。」と定義し、輿水優など（2009:107）は「補語とは、動詞（形容詞を含む）が表す動作行為の結果や状況を補足説明する成分である。」と定義している。

2) 相原茂など（1996：283）は補語を 3 類（“得”補語「程度補語、様態補語」、結果補語、方向補語）挙げ、輿水など（2009:107）は補語を 5 類（結果補語、方向補語、可能補語、程度（状態）補語、数量補語）を挙げている。

1.1. 数量補語

「数詞＋量詞」あるいはそれに準じる連語を用いて動作の回数や時間の長さなどを表す連語がある。それを動詞や形容詞の後に用いて、一般に数量補語と名付けている。李臨定は数量補語を動作量と時間量の２類[3]に分け、以下のような文を挙げている。

（４）我**请过**他两次。（『李臨定』p.153）
私は彼を２回招いたことがあります。（同上）

（５）今年下了两次雪。（『李臨定』p.154）
今年２回雪が降りました。（同上）

（６）你等我一会儿。（『李臨定』p.155）
しばらく私を待っていてください。（同上）

（７）他教了十年**书**。（『李臨定』p.156）
彼は10年間教師をしました。（同上）

李臨定が挙げる例文のうち、動作量は“两次”（例４，５）、時間量は“一会儿”（例６）、“十年”（例７）である。このほかに比較量を表せる補語もある。相原茂などは、この比較量で表す補語を「差量」（1996：282）と名付けている。筆者がここで言う比較量とは、相原らの名付ける差量であり、下記の例文に見られるような、何かを比較した後の差“三**岁**”（例８）、“一斤”（例９）、“一点儿”（例10）である。

（８）哥哥比我大三**岁**。（『相原など』p.282）
兄は私より３歳年上だ。（同上）

（９）**这**个西瓜比那个重一斤。（『相原など』p.282）
このスイカはそれより１斤重い。（同上）

（10）他的病今天比昨天好一点儿。（『相原など』p.282）
彼の病気は、今日は昨日より少し良い。（同上）

以下では数量補語が補語と言えるか否かについて検討する。李臨定によれば、補語は動詞あるいは形容詞を補充、説明する語句である。実例により、この学説を検討してみよう。

（11）儿子**长这**么大了，没**买过**一回菜，没**烧过一顿饭**，没洗**过**一件衣，没拖**过**一次地，就**连**床也都是她**妈铺**的。（『人民』97-10-75）
この年になるまで息子は野菜一本買ったこともなければ、炊事や洗濯、掃除はおろか、ベッドのメークまで母親にやらせてきた。（同上、97-10-74）

（12）晚会主持人的**话还**没**讲**完，台下就响起了**热**烈的掌声，**还**夹**杂着**一两声口**哨**声。（『人民』96-10-87）

---

[3] 相原茂など（1996：276～282）は、この類の数量表現を３類に分け、「動量・時量・差量」と名づけ、輿水優など（2009: 122～126）はこれを動作量補語、時間量補語、比較数量補語と名付けている。筆者も相原や輿水などに倣い数量表現を３類に分類し、「動作量・時間量・比較量」の３類に分ける。

司会者の案内が終わらないうちに、　場内から大きな拍手が起こった。中には口笛の音も混じっている。（同上、96-10-86）

（13）方冬扔下**话**筒，**发疯**似地吼了一声，随后又**对着墙**壁叫：老子明天决不死！不死！我不**仅**要活到明天，我**还**要活到明年！（『人民』96-8-87）

彼は受話器をたたきつけると狂ったように吼え、壁に向かって叫んだ。「そんなに早く死ねるかい！死ぬもんか、明日どころか、来年まで生きてやる」（同上）

（14）看完信，大康恍然大悟，他突然**抱**住桑园，在她的**脸**上重重地**亲**了一口。（『人民』97-4-87）

大康はこの手紙で、留守中に何があったのか全てを悟った。いきなり桑園を抱き締めると、彼女の額にあつい、あついキスをした。（同上）

（15）果然，**这**天他接到了范**丽**的**电话**，他本想**对着话**筒歉疚地**说**一句：范**丽**，我**过**去**对**不起你。（『人民』96-8-87）

はたせるかな、この日范麗から電話が掛かってきた。彼は受話器を手にしたとき、「范麗、君には済まなかった」と一言詫びるつもりだった。（同上、96-8-86）

（16）抒情**诗**人**这**一**说**，大伙儿立即起哄，**说**有本事你**约**她一次，如果**约**出来，所有**费**用我**们**哥儿**们包**了。（『人民』96-10-87）

これを聞くとみんなは一斉に吠えかかった。えらいことを言うじゃないか。それじゃ一回彼女を誘ってみろよ、もしデートできたら、その費用は全部おれたちが持ってやる。（同上、96-10-86）

例（11）（12）の“一回菜”“一**顿饭**”“一件衣”“一次地”“一两声口哨声”はいずれも「数詞＋量詞＋名詞」構造であり、客体と言える。これらは文成分としては限定語「数詞＋量詞」と客語「名詞」とに分析していいだろう。（13）から（16）の“一声”“一口”“一句”“一次”はいずれも「数詞＋量詞」構造である。これらは名詞や名詞連語を加えて“一声海豚音”“一句**话**”“一口嘴”“一次会”とも言える。このように表現できれば、これらはいずれも（11）（12）の「数詞＋量詞＋名詞」構造と基本的に同様の構造となる。そうであるとするならば、動詞の後に用いて動詞を補充説明する語句ではなく、「動詞＋［数詞＋量詞＋名詞］」または「動詞＋［数詞＋量詞］」構造により出来事を表すので、「数詞＋量詞＋名詞」や「数詞＋量詞」は動詞の客体であり、補語ではなく客語[4]といえる。

構造の面から見ても、以下の文に見られるように、典型的な「述語動詞＋補語動詞」の間には、動態助詞“了、**着**、**过**”を用いることはできないが、上掲の文では“了（例 13）、**着**（例 12）、**过**（例 11）”を用いている文もある。

（17）无声的雪花，如**银**如絮，立刻盖住了**这对拥抱着**的父子。（『人民』97-2-87）

銀のような綿のような雪が音もなく降ってきて、抱き合った親子をたちまち包み込んだ。（同上）

---

[4] 相原茂など（1996：283）は補語とは言わず、数量表現といっている。輿水優など（2009:130）では「数量補語を準賓語とする考え方は、社会科学院言語研究所の丁声樹《**现代汉语语法讲话**》をはじめ、朱德熙《**语法讲义**》呂叔湘《**现代汉语八百词**》でも採用されているが、学校文法は一般に従来のまま補語としている。」と述べている。

（18）他拿出家里的**积**蓄，不够，又把**银**行的存款取出来，凑够一万元，放在了老**乡**的面前。（『人民』97-4-87）

まず家中の金をかき集め、次に銀行にいって足りない分を下ろすと、ぴたり一万元を男の前に差し出した。（同上、97-4-86）

（19）来的人都**说**我**这**椅子做得好，只是跟另一把椅子不配套。（『人民』96-7-87）

我が家を訪問した人は、みんなこの椅子をほめ、ついでにもう一方のほうを「釣り合わないね」とけなしていく。（同上、96-7-86）

（20）在那个遥**远**的夏季里，我失去了明亮的双目，世界从此在我的面前**变**得一片黑暗。（『人民』96-12-87）

あの遠い夏の日に、結局僕は視力を失って、目の前は真っ暗闇になってしまった。（同上）

一般に例（17）の“盖住”の“住”は結果補語、（18）の“拿出”“取出来”の“出”“出来”は趨向補語、（19）の“做得好”の“好”は程度補語、（20）の“**变**得一片黑暗”の“一片黑暗”は様態補語と言われている典型的な補語である。

例（17）の“盖住了**这对拥抱着**的父子”の“盖住”は、「述語動詞＋補語動詞」の構造で、両者の間には動態助詞“了”を用いられないが、“盖住”の後には動態助詞“了”を用い、“盖住了**这对拥抱着**的父子”の構造を作っている。この構造は、「動詞＋“了”＋客体（名詞）」“我吃了苹果。”構造と基本的に同様である。

以上の「数詞＋量詞」の量詞には動量詞[5]と名量詞とが含まれているが、いずれも動作量を表しているので、例（8）から（12）に見える「形容詞／動詞＋比較量／動作量」で出来事を表す比較量／動作量は客語と言っても問題がないようである。以下では李臨定の言う時間量を用いている実例を見て検討してみよう。

（21）又**费**了一个月的**时间**，我**为**“小姐”做了整容。（『人民』96-7-87）

「お姫さま」の手入れには、さらに一ヵ月かかった。（同上、96-7-86）

（22）他**说**：“常言道好女怕男**缠**，给一个月**时间**，**约**不出，我不写那**烂诗**了。”（『人民』96-10-87）

彼は言った。「どんな堅い女でも男につきまとわれると弱い、というからな。一ヵ月待ってくれ。もし彼女を誘い出せなかったら、二度と詩を書くのはやめるさ」（同上、96-10-86～87）

（23）于是**过**了几个星期，箱子又**变**成了酒柜。（『人民』96-7-87）

何週間かすると、箱は戸棚に変わった。（同上）

（24）**过**后**县长对**新任秘**书说**：“小郝忠于**职**守干了10年秘**书**，最近我才**发现**他的杆，他成熟了。”（『人民』97-7-87）

のちに、県長は信任秘書にこう語ったという。「小郝この十年間こつこつと秘書をやってくれた。だが最近になって彼の才能に気がついたんだ。立派に成長したものだな」（同上）

[5] 輿水優など（2009:121）では「動作量の単位は動量詞で、専用動量詞と借用動量詞とがある。」と述べている。

（25）郝秘**书叹**口气，**说**：“我已在**县**府干了 10 年，半途下海**呛**了水**岂**不被人嘲笑！”（『人民』97-7-87）

郝平は溜め息をついた。「十年も役所勤めをしながら途中で金儲けに手を出して、失敗でもしたらお笑い草だぜ」（同上、97-7-86）

例（21）の“一个月的**时间**”、（22）の“一个月**时间**”は、どちらも“一个月”と言ってもよい。このように表現すれば、どちらも「数詞＋量詞＋名詞」構造である。（23）の“几个星期”も「数詞＋量詞＋名詞」構造である。また、（23）は“一个月”と表現しても意味が変わるだけで文としては成立する。これらはいずれも時間量を表す。（24）の“10 年秘**书**”と（25）の“10 年”も時間量を表している。（24）と（25）は“秘**书**”の有無による違いであり、文意から言えば、どちらも秘書としての勤務年数を言っている。この勤務年数も動詞を補足説明しているのではなく，「動詞＋秘書年数」により出来事を表している。そうであるとすれば、“10 年秘**书**”と言っても“10 年”と言っても、補語ではなく客語というほうが妥当であろう

1.2. 方向補語

李臨定（1993：159）は方向補語文について、「述語の後に方向補語のある文を方向補語文という。」と定義している。方向補語には単純方向動詞（例 26，27）と複合方向動詞（例 28，29，30）があるとし、以下のような文を挙げている。

（26）他**们**一起走进了**书**店。（『李臨定』p.159）

彼らはいっしょに書店にはいりました。（同上）

（27）他从抽**屉**里拿出一封信。（『李臨定』p.161）

彼は引出しから手紙を一通とり出しました。（同上）

（28）他跑下山来。（『李臨定』p.160）

彼は山を駆けおりて来ました。（同上）

（29）他从缸里**捞**上来一条**鱼**。（『李臨定』p.162）

彼はかめの中から魚を一尾すくいあげました。（同上）

（30）天慢慢黑下来了。（『輿水優・島田亜美』p.114）

空がだんだん暗くなってきた。（同上）

方向補語は一般に動詞や形容詞[6]の後に用いられる単純方向動詞“来、去”と複合方向動詞“下来、下去……”とに分けられるが、筆者はこの説を採らず、動詞とこれらの趨向動詞のくみあわせ“跑下、跑来、下来、跑下来……”、さらに名詞を含むくみあわせを含めて動詞連語と名付けている。これらのくみあわせを作る動詞を有様移動の動詞“跑、游”（略称：有様）、位置移動の動詞“上、下”（略称：位置）、趨向移動の動詞“来、去”（略称：趨向）と名付けている。

---

6) 李臨定（1993：159）では形容詞の後に用いられる方向補語の例文（例 30）が挙げられていない。形容詞の後の方向補語はヒトの意思で制御できないので、必ず複合方向動詞である。

筆者の説に従えば、例（26）の“走进了书店”は基本構造が“进书店”なので、基本義の進行を表す“进”は、補語ではなく述語である。しかし、（27）の“拿出一封信”の基本構造は“拿一封信”なので、機能義を表す“出”は述語ではなく補語である。ここで実例を見て検討していこう。

まず二つの移動動詞と客体とで作る連語は、構造の面から二類（「有様＋位置／趨向＋客体」“跌进船舱、拿来一封信”、「有様＋客体＋趨向」“坐飞机去、带他来”」に大別できる。前者の構造（「有様＋位置／趨向＋客体」から見ていこう。

（31）六道期待的光柱，把两个救生圈推向看不见的生命的彼岸……之后眼一闭，随浪头跌进船舱，坦然封起舱门。（『人民』93-4-111）

期待を込めた三人の視線。見とどけることのできない生命のかなたへと、二つのブイを押しやって、それからちょっとのあいだ目を閉じ、三人は波がしらとともに船室に転げこむと、泰然自若、船室の扉を閉じた。（同上）

（32）警察笑着摇摇头，突然跳起身，“嘣”地关门，也向球场跑去。（『人民』94-4-93）

やれやれと笑っていた巡査も、飛び上がって「バン」とドアを閉め、スタンドの方へ走って行った。（同上）

（33）后来，他考上了大学，我们就再没见过面。（『人民』93-1-111）

それから羅さんは大学に受かって、わたしたちそれきり会っていないけれど。（同上）

（34）汉子的酒越吃越热，鼻子尖上沁出了细碎的汗珠儿。（『人民』93-3-111）

酒は、飲むほどに火照って鼻の先にこまかい汗の玉がにじんだ。（同上、93-3-110）

（35）亏得警察当机立断，把他俩带出球场“冷处理”，否则，天知道球场上情绪到沸点的两派观众会不会因此酿出一场骚乱。（『人民』94-4-93）

幸い巡査が即断即決、両名をスタンドから連れ出すという「冷凍処理」をしたからよかったが、でなかったら、興奮その極に達していた両チームのファンがどんな騒ぎを起こしたか、わかったものではない。（『人民』94-4-92）

例（31）の二つの連語“跌进船舱”“封起舱门”は、それぞれ「進行」と「行為」を表している。前者の基本構造は“进船舱”で、“跌”は“进船舱”の方式を表す。後者の基本構造は“封舱门”であり、“起”は機能義である。（32）の連語“跳起身”は「動作」を表し、基本構造は“起身”で、“跳”は方式を表す。（33）の“考上了大学”は「結果」表し、基本構造は“考上大学”で、“考上”は複合動詞である。（34）の“沁出了细碎的汗珠儿”は「状態」を表し、基本構造は“沁细碎的汗珠儿”で、“出”は機能義である。（35）の“把他俩带出球场”は“把”字連語であり、動詞を核とする連語のひとつで、「進行」を表す。“把他俩带出球场”の基本は“出球场”であり、“带”は“出球场”の方法を表している。この五類の表す意味のうち、「状態」だけはヒトの意思とは無関係である。

刘月华主编（1998：1～2）は趨向補語の主要な文法的意味は趨向意義、結果意義、状態意義の三類に大別できるとしている。筆者は移動動詞“走上来”を「有様“走”、位置“上”、趨向“来”」の三類に分け、これに客体を加えることにより、以下のような五類の意味を表すと分析している。

［表 1］動詞連語と客体とで作る意味

進行（“跌进船舱”：例31）
- 動作（“跳起身”：例32）
- 行為（“封起舱门”：例33）、結果（“考上大学”：例34）
- 状態（“沁出细碎的汗珠儿”：例35）

基本となる三類の移動動詞はいずれも移動を表すので、その客体は移動と関係のある空間詞であり、これが基本構造となる。たとえば、“走上楼来”［歩いて階段を上がってくる］の構造である。二類の移動動詞と客体との関係も同様で、基本構造により意味が分かれる。たとえば、“跌**进**船**舱**”（例 31）は基本構造“**进**船**舱**”により「進行」を表す。“跳起身”（例 32）は基本構造“起身”により「動作」を表す。それ以外は、一般に位置移動の動詞の機能により空間詞以外の客体ともむすびつき、“封起**舱门**”（例 31）は「行為」、“考上大学”（例 33）は「結果」、“沁出**细**碎的汗珠儿”（例 34）は「状態」などを表す。この場合は有様移動の動詞“跑、**飞**”の代わりに有様動詞“跌、跳”や有様形容詞“黑、**亮**”なども用いられる。ただし、ヒトの意思では形容詞の表す運動を制御できないので、有様形容詞は必ず「位置＋趨向」を伴い“黑下来、亮起来”の構造となり、趨向のない“黑下、亮起”では表現できない。［表 1］で「行為」と「結果」を同レベルで扱っているのは、両者には共通性があり、どちらの意味が強く出るかの違いだけだからである。

次に後者の構造「有様＋客体＋趨向」を見ていこう。本構造は一般には「述語動詞＋名詞＋補語動詞」と分析されている。筆者は本構造も「有様＋派生空間詞＋趨向」と分析する。

（36）无**论**在路上如何心急火燎地**紧**赶慢赶，从高速公路来，坐**喷**气式**飞**机来，但**进**了羊肉**泡馍**店，你就必**须**按照古老的**时间**，慢下来，而且越慢，你那碗羊肉**泡**沫才越能吃到位。（『人民』15-6-68）

高速道路で、あるいはジェット機で、どんなに焦って先を急いでやって来たとしても、ひとたび「羊肉**泡馍**（パンの羊スープ浸し）」の店に入ったならば、昔の時の流れにのっとって、ゆったりと構えなければならず、さらに言えば、ゆったりすればするほど「羊肉**泡馍**」は食べごろになる。（同上）

（37）后来父**亲**带他去了那家**书**店，**卢苇真**看**见**了好多**书**，**卢苇**看**着书**泪都流到**书**上了。（『人民』19-4-68）

後に父は彼をその本屋に連れて行った。盧葦はそこにあるたくさんの本を目の当たりにして、本を目にしながら涙が本の上にこぼれ落ちた。（同上、19-4-69）

（38）**过**了几天，心情平静**以**后，我**才**拿**钱**去**给**老何。（『人民』18-7-69）

数日後、心を落ち着かせてから、私はお金を持って何さんのところに行った。（同上、18-7-68）

例（36）の“坐**喷**气式**飞**机来”は「有様動詞“坐”＋派生空間詞“**喷**气式**飞**机”＋趨向“来”」構造で、「進行」を表している。“**喷**气式**飞**机”はヒトが作るモノなので、単語レベルではモノ名詞だが、連語“坐**喷**气式**飞**机”「立ち居のむすびつき」のなかでは、空間を表しているので、場所を表す派生空間詞と名付ける。また、（36）の下線部の連語は“坐**喷**气式**飞**机来日本”とも言えるので、“来”は

補語動詞ではなく述語動詞である。(37) の“**带**他去了那家**书**店”は「有様動詞“**带**”＋代詞“他”＋趨向“去”＋派生空間詞“那家**书**店”」で、やはり「進行」を表し、“去那家**书**店”とも言えるので、“去”も述語動詞である。(38) の“拿**钱**去**给**老何”は「進行」を表す「有様動詞“拿”＋モノ名詞“**钱**”＋趨向“去”」の後に、さらに行為を表す連語「有様動詞“**给**”＋ヒト名詞“老何”」が用いられている。本構造の“去”も“学校”を加え“拿**钱**去学校**给**老何”と言うこともできるので、“去”は補語動詞ではなく述語動詞である。

次に三つの移動動詞と客体とで作る連語を見ていこう。これらで作る構造は「有様＋位置＋客体＋趨向」「有様＋客体＋位置＋趨向」「有様＋位置＋趨向＋客体」の三つに大別できる。

1.2.1.「有様＋位置＋客体＋趨向」構造

本構造は一般に「動詞＋補語＋客体＋補語」と分析されているが、筆者は、これも「有様＋位置＋客体＋趨向」で作る動詞連語と分析する。実例によって分析してみよう。

(39) 她默默地走下楼去。(『人民』94-8-93)
彼女は黙って階段を下りて行った。(同上)

(40) 一天早**饭**后，王五老**汉**正在炕上**喝**茶，有个南方口音的人找上门来，先**说**是修雨**伞**的，随后附在老**汉**的耳**边嘀**咕了几句，老**汉**一下子眉**飞**色舞起来。(『人民』90-1-98)
ある日、朝食後、王五おやじがオンドルにすわって茶を飲んでいると、南方なまりの男が訪ねてきた。まず「雨傘の修繕屋ですが……」といい、それから、おやじの耳もとでひそひそ話をした。とたんにおやじの顔がかがやいた。(同上、90-1-99)

(41) “啊！”主任**这才**抬起**头**来，**认**真**盯着**我**问**道，“你不是工程**师吗**？”(『人民』88-4-92)
「なんだって？」主任は、はじめて顔をあげ、まじまじとわたしを見つめてたずねた。「きみは技師だろう」(同上、88-4-92～93)

例 (39) の連語“走下楼去”[7] は客体“楼”が位置“下”の後に用いられ、両者で「進行」を表す。本構造は“走下楼＋去”である。連語論の観点から分析すれば、“走下楼”と“去”とに分かれる。前者の基本は「空間的な進行のむすびつき」“下楼”であり、“走”は“下楼”の方式を表し、“去”は移り義を表す。そのため、本構造は“走下楼去朋友的房**间**”とも言える。このように表現できれば、“去”は述語動詞である。(40) の“找上**门**来”は「進行」を表し、構造は“找上**门**＋来”である。連語論の観点から分析すれば、“找上**门**”と“来”とに分かれる。前者の基本は「空間的な到着のむすびつき」“上**门**”であり、有様動詞“找”は“上**门**”の方法を表し、“来”は趨向義を表す。(41) の“抬起**头**来”は「動作」を表し、構造は“抬起**头**＋来”で、連語論の観点から分析すれば、“抬起**头**”は「動作」を表し、基本は“抬**头**”で、“起”は機能義、“来”は趨向義を表す。

---

7) 下記に挙げる実例中に見られる“**飞**到美国去”は、「移動」を表し、よく見かける構造であるが、「有様＋位置＋客体＋趨向」構造とは異なる。“到”が位置移動の動詞と異なる体系に属するからである。
再接下来，一切都**顺**理成章，在秋季很美**丽**的一天她**飞**到美国去了。(『人民』95-6-99)
あとはすべて自然の筋書き通りに運び、ある美しい秋の一日、彼女はアメリカに飛んで行った。(同上)

連語「有様＋位置＋客体＋趨向」が「進行」を表せば、文分析では「述語＋述語＋客語＋述語」であり、「動作」などを表せば、「述語＋補語＋客語＋述語」であり、二つの構造に分かれる。

1.2.2.「有様＋客体＋位置＋趨向」構造

本構造は一般に「動詞＋客体＋複合補語動詞」と分析されているが、筆者は「有様＋客体＋複合述語動詞」に分析する。本構造は「有様＋客体」と「複合述語動詞」とに分析できる。

（42）但待有人推**门进**来**时**，她又**连**忙把**鱼拨进**了自己的**饭**盒里。（『人民』89-6-98～99）
そのうち同僚がドアを開けて入ってきたので、鞠さんはまたあわてて、それを自分の弁当箱に入れた。（同上、89-6-99）

（43）妻出于**护**士**职业**的敏感，翻身起来。（『人民』90-11-96）
妻は看護婦という職業がら敏感なのか、パッと起き上がった。（同上、90-11-97）

例（42）の“推**门进**来”の構造は“推**门**＋**进**来”である。“推**门**”は「行為」を表し、“**进**来”は「進行」を表している。連語全体ではヒトの「進行」を表す。（43）の“翻身起来”の構造も“翻身＋起来”であり、“翻身”［身体を翻し］は「動作」、“起来”［起き上がる］も「動作」を表しているので、全体でも「動作」を表す。

1.2.3.「有様＋位置＋趨向＋客体」構造

本構造は一般に「動詞＋複合補語動詞＋客体」と分析されているが、筆者は二類の構造「有様＋位置＋趨向＋客体」と「有様＋複合補語動詞＋客体」とに分析している。

（44）一**辆**小**轿车**停下来了，走下来一位**满头**白**发**的老**爷爷**，**还**有路**边过**往的行人，都来帮**着捡**撒了一地的苹果。（『人民』14-9-68）
乗用車が止まり、白髪の老紳士が降りてきた。そして通りがかりの人もみんなやって来て、道に落ちたリンゴを拾い始めた。（同上）

（45）我知道，一家人是从牙**缝**里省下来小麦，供**应**我**读书**的。（『人民』97-5-87）
家中の者が我慢に我慢をして余した小麦を、自分に送ってくれているのだった。（同上、97-5-86）

（46）我和堂妹打开旅行包，把一大**篮**苦柚装**了进**去。（『人民』93-6-111）
ぼくといとこは旅行かばんをあけて、かごのザボンを詰めた。（同上）

例（44）の“走下来一位**满头**白**发**的老**爷爷**”は客体が分文末にあるタイプで、構造は“走下来＋一位**满头**白**发**的老**爷爷**”であり、両者で「進行」を表している。“走下来”はそれぞれが基本義を表す動詞連語“走［歩く］下［降りる］来［来る］”である。（45）の“省下来小麦”も客体が分文末にあるタイプである。構造は“省下来＋小麦”であり、両者で「行為」を表す。“省下来”は有様を表す基本義“省”と持続を表す機能義“下来”である。このほか、客体をとらない（44）の“停下来”のタイプもあり、この動詞連語は「状態」を表している。“停”は基本義、“下来”も有様“停”の持続を表す機能義である。このタイプも意味的には「移動・動作・行為・結果・状態」に分類できる。

（46）の“把一大**篮**苦柚装了**进**去”は“把”字連語であり、本連語の基本は“把一大**篮**苦柚装了”で行為を表し、“**进**去”は機能義を表している。これはザボンをカゴに入れる行為に伴い、ザボンがカゴに入ることを表している。連語全体では「行為」を表している。

1.3. 結果補語

李臨定（1993：168）は結果補語文について、「文の謂語の中心語の動詞（あるいは形容詞）の後に結果補語のある文を結果補語文という。」と定義している。結果補語には自動詞（形容詞）あるいは他動詞もあるとして、以下のような文を挙げている。

（47）孩子哭醒了。（『李臨定』p.169）
　　子供は泣いて目をさましました。（同上）

（48）小姑娘**长**高了。（『李臨定』p.169）
　　女の子は背がのびて高くなりました。（同上）

（49）小**马饿**瘦了。（『李臨定』p.169）
　　子ウマは飢えでやせました。（同上）

（50）他吃剩了半碗**饭**。（『李臨定』p.179）
　　彼はご飯を半碗食べ残しました。（同上）

（51）他**们发**通知**发**漏了两份。（『李臨定』p.179）
　　彼らは通知を 2 通出すのをもらしました。

李臨定は、上掲の例文で補語になる単語を自動詞“醒”（例 47）と形容詞“高”（例 48）、“瘦”（例 49）、および他動詞“剩”[8]（例 50）、“漏”（例 51）に分け、それぞれ分かりやすい例文を挙げている。他動詞の対象としての“半碗**饭**”（例 50）、“两份”（例 51）は賓語（客語）である。以下では結果補語の実例を見て、結果補語について検討してみよう。

（52）火**车**就要开了，他**还**没来，真急死人了。（《**语**法篇》p.176）
　　汽車はすぐ出るというのに、彼がまだ来ていないから、いらいらする。（筆者訳）

（53）他**说**得很快，我没听清楚。（《**语**法篇》p.176）
　　彼は早口なので、はっきりは聞き取れない。（筆者訳）

（54）今天真累坏我了。（《**语**法篇》p.176）
　　今日はほんとに疲れた。（筆者訳）

例（52）の“急死人了”は“急死”が「述語＋補語」、“人”が客語である。（53）の“没听清楚”は“听清楚”が「述語＋補語」であり、“没”がそれを否定している。（54）の“累坏我了”は“累坏”が「述語＋補語」であり、“我”が客語である。これらの補語“死（動詞）、清楚（形容詞）、坏（形容詞）”は、いずれもそれぞれの品詞の基本義ではなく程度を表す機能義である。

---

8) 相原茂など（1996：242）は、「“**妈妈叫**醒了我。”［母が私を起こした。］について、“**叫**”は母親の行為であり、“醒”するのは私です。」と説明している。

（55）无声的雪花，如**银**如絮，立刻盖住了**这对拥抱着**的父子。（『人民』97-2-87）
銀のような綿のような雪が音もなく降ってきて、抱き合った父子をたちまち包み込んだ。（同上）

（56）看完信，大康恍然大悟，他突然**抱**住桑园，在她的**脸**上重重地**亲**了一口。（『人民』97-4-87）
大康はこの手紙で、留守中に何があったのか全てを悟った。いきなり桑園を抱き締めると、彼女の額にあつい、あついキスをした。（同上）

（57）娘啊！你太苦了，**过**度的**劳**累**让**你一个四十多**岁**的女人**变**成仿佛六十老**妪**。（『人民』97-5-87）
母さん、ご苦労だなあ！仕事のしすぎでまだ四十なのに、もう六十の婆さんに見えるよ。（同上、97-5-86）

（58）每天，我足未**进**店，她就**为**我挪好了椅子，**还**用布擦了擦坐**垫**和拷**贝**。（『人民』97-1-71）
毎日、僕がまだ店ののれんをくぐる前にすばやく椅子をととのえ、雑巾で座布団と背もたれを丁寧に拭いてくれる。（同上、97-1-70）

結果補語文について、注 8）に挙げる例文と相原などの解釈は、文によっては分かりやすいと言えるが、すべての文に適応できるかどうかは若干疑問である。たとえば、例（55）の“无声的雪花，如**银**如絮，立刻盖住了**这对拥抱着**的父子。”は、相原などの解釈によれば、“盖”するのは“无声的雪花”だが、“住”されるのは“**这对拥抱着**的父子”だと説明されても、これらの関係は理解しかねる。それよりもごく一般に解釈されている「限定語＋“的”＋主語」“无声的雪花”と「述語＋補語」“盖住”と「限定語＋“的”＋客語」“**这对拥抱着**的父子”との関係で、解釈するほうが分かりやすいであろう。

例（55）の“盖住了**这对拥抱着**的父子”［抱き合った親子をたちまち包み込んだ］は、“盖住”が「述語＋補語」、“**这对拥抱着**的父子”が「限定語＋客語」に分けられ、補語“住”は基本義［住む］ではなく機能義［すっぽり］である。（56）の“看完信”［この手紙で］は、“看完”が「述語＋補語」、“信”が客語であり、補語“完”は基本義［終わる］ではなく機能義［終える］である。（57）の“**变**成仿佛六十老**妪**”［もう六十の婆さんに見えるよ］は“**变**成”が「述語＋補語」、“仿佛六十老**妪**”は「副詞＋数詞＋名詞」だが、全体で「客語」に分けられ、補語“成”は基本義［成功する］ではなく機能義［なる］である。（58）の“挪好了椅子”［椅子を整え］は“挪好”が「述語＋補語」、“椅子”が「客語」に分けられ、補語“好”は基本義［よい］ではなく機能義［きちんと］である。これらの補語は、いずれも基本義ではなく機能義である。

1.4. “得”字補語

李臨定（1993：185）は“得”字補語文について、「謂語の中心語の後に“得”字があり、その後に補語のある文を“得”字補語文という。」と定義し、以下のような文を挙げている。

（59）那里的**东**西**贵**得很。（『李臨定』p.186）
あそこの品物はたいへん高い。（同上）

（60）我的肚子疼得厉害。（『李臨定』p.187）

私はひどく腹が痛みます。（同上）

（61）屋子里乱得难以下脚。（『李臨定』p.188）

部屋の中は、足の踏み場もないくらい散らかっています。

（62）这句话说得大家都笑了起来。（『李臨定』p.196）

この話で、みんなはどっと笑い出しました。（同上）

“得”字補語文は、一般に文法書や教科書では程度補語と様態補語[9]とに分けられている。相原など（1996：233～237）によれば、例（59）（60）の“得”字連語“贵得很”“疼得厉害”などの補語は程度補語である。この名付けは“很”“厉害”などが動詞や形容詞“贵、疼”の程度を表すからである。（61）（62）の“得”字連語“乱得难以下脚”“说得大家都笑了起来”などの補語は様態補語である。この名付けは“难以下脚”“大家都笑了起来”などが動詞“说”や形容詞“乱”の様態を表すからである。なお、李臨定の挙げる文には“他学汉语学得很快。”[10]の類の程度補語文が挙げられていない。この文の補語“很快”は程度補語である。以下では“得”字補語の実例を見て、“得”字補語文について検討してみよう。

（63）那几个食客吃了直朝我翘拇指，赞扬我这螺炒得好。（『人民』97-1-71）

客はそれを食べると私に向かって親指を立て、旨いぞ！と口をそろえて絶賛した。（同上）

（64）北方的冬天来得早。（『人民』97-2-87）

北国は冬の訪れが早い。（同上）

例（63）の“得”字連語“炒得好”の“好”［上手い］は動詞“炒”［炒める］の程度、（64）の“得”字連語“来得早”の“早”［早い］は動詞“来”［来る］の程度と解釈できるからであろう。

（65）椅子做成了，浑然一体的红松结构严丝合缝、玲珑剔透，古铜色的油漆散发出一股芳香，表面光亮得像面镜子。（『人民』96-7-87）

やがて、赤松を材料にしてできた椅子は寸分の隙もなく、赤銅色のペンキはいい香りを漂わせて、表面は顔が映りそうに光っていた。（同上、96-7-86）

（66）跑堂的是个川妹子，老板娘叫她阿春，长得虽不十分妩媚，五官倒也齐整，尤其看人时，眼睛潮潮的，一副情深意长的样子。（『人民』97-1-87）

この店に料理を運ぶ四川省出身のウエイトレスがいて、ママは彼女を「お春」と呼んでいた。色っぽいと言うほどではないが、目鼻立ちが整っていて、とくに人を見るときの眼がうるんでいて、なにか心ありげに見える。（同上、97-1-86）

（67）阿春不苟言笑，她普通话讲得不顺溜，带着浓浓的川音。（『人民』97-1-87）

お春は軽々しくしゃべったり笑ったりする娘でなかった。普通話があまり巧くなく、発音には四川なまりが強く残っていた。（同上、97-1-86）

---

9) 相原茂など（1996：233～237）は、“得”字補語を補語の表す意味から程度補語と様態補語とに分けている。

10) 本構造の文は、旧情報“他学汉语”のなかの新情報“学得很快”を伝える文である。この類の文は、“他是昨天来日本的。”と同様の文で、旧情報“来日本”のなかの新情報“昨天”を伝える文である。

例（65）（66）（67）は一般に言われている様態補語文である。（65）の“得”字連語“光亮得像面**镜**子”［顔が映りそうに光っていた］の“像面**镜**子”は、形容詞“光亮”の様態を表している。（66）の“得”字連語“**长**得虽不十分**妩**媚，五官倒也**齐**整”［色っぽいと言うほどではないが、目鼻立ちが整っていて］の“虽不十分**妩**媚，五官倒也**齐**整”は動詞“**长**”の様態を表している。（67）の“得”字連語“**讲**得不**顺**溜”［あまり巧くなく］の“不**顺**溜”は動詞“**讲**”の様態を表している。しかし、この意味での「様態」は「程度」とも解釈できるであろう。そうであれば、これらは程度と様態に分けるよりは、場合によっては分け難い場合もあるので、「“得”字補語」または「程度補語」で統一する方[11]が分かりやすいであろう。一般には名付けとしての術語を統一し、分ける必要があれば、程度補語文と様態補語文とに分けてもいいだろう。

1.5. “个”字補語

李臨定（1993：185）は“个”字補語文について、「述語の後に“个”字があり、その後に補語のある文を“个”字補語文という。」と定義し、以下の文を挙げている。

（68）他倒跑了个快。（『李臨定』p.200）
　　彼は意外に速く走りました。（『李臨定』p.201）

（69）他把情况**讲**了个清清楚楚。（『李臨定』p.201）
　　彼は情況をはっきりと話しました。（同上）

（70）孩子哭个不停。（『李臨定』p.202）
　　子どもが泣きやみません。（同上）

（71）两个人一**见**面，就**说**个没完。（『李臨定』p.202）
　　ふたりは会うや否や、話しだして、やむところがありません。（同上）

李臨定が上掲の文を“个”字補語文と名付けたのは、“跑了个快”を“跑得快”に、“**讲**了个清清楚楚”を“**讲**得清清楚楚”に、“哭个不停”を“哭得不停”に、“**说**个没完”を“**说**得没完”のように、いずれも“得”字補語文に言い換えることができるからであろう。しかし、以下の文に見られるように、典型的な補語の前には動態助詞“了”を用いることができない。

（72）他**们**约好了在**这**里相**见**，他就一**直**在**这**里等他**归**来。（『人民』96-12-85）
　　ここで会う約束をしたので、ずっと彼女の帰りを待っているのよ、きっと。（同上）

（73）我看她一个人忙得**团团转**，心里一**亮**，**说**声：“我来帮帮你吧。”就上前替她端菜送酒，手脚像抹了油，挺麻利的。（『人民』97-1-71）
　　僕はひとり忙しく立ち働いている彼女をみて、ぱっとひらめいた。「手伝ってあげよう」そういうと、彼女に代わって料理を運び、酒も出したのだが、そのなめらかな手足の動きはまるで油でもさしたようだった。（同上）

---

[11] 樊平など（1988：154～157）では、程度補語と様態補語とに分けず「程度補語」という名称を使っている。刘珣など［日本語版］1（1991：361～364）と刘珣など［日本語版］2（1991：315）も程度補語で統一している。輿水など（2009：130～133）では状態補語と名付け統一している。

例（72）の“**约**好了在**这**里相**见**”の“好”は結果補語であり、その前の動詞“**约**”との間には動態助詞“了”を用いることができない。しかし、その後の動詞連語で作る客体“在**这**里相**见**”との間には動態助詞“了”を用いているので、文意によって“了”を用いることができる、と言える。（73）の“忙得**团团转**”は“得”字連語であり、“得”の前後には動態助詞“了”を用いることができない。いかなる場合であれ、述語と補語との間には動態助詞“了”を用いることができない。（68）（69）は李臨定の言う述語“跑、**讲**”と補語“个快、个清清楚楚”との間に動態助詞“了”を用いているので、李臨定の言う“个”字補語文の“个”字連語“个快、个清清楚楚”は補語とは言えない。

通用固体名量詞“个”は専用固体名量詞のない名詞のまえに用いるのが基本的な用法だが、筆者は他の品詞および連語や成語などの前に用いられても、それらの単語や連語を名詞として扱う機能[12]があるとして、李臨定のこの説を否定している。以下の“个”も同様の機能である。

（74）他开始想**这**些年他有**负**于**谁**，**该**在**临**死前向人家道个歉。（『人民』96-8-87）
こうなって初めて、誰かに不義理をしてないだろうか？死ぬ前にちゃんと謝っておきたいがと考え考え始めた。（同上、96-8-86）

（75）郝秘**书**讨个没趣，恨不得掴自己一个嘴巴。（『人民』97-7-87）
空振りに終った郝秘書は、自分のドジさ加減に、手前のほっぺたをはりたい気持ちだった。（同上、97-7-86）

（76）母**亲总**是一有空**闲**就在炕**头纺线**、**缝**衣、**纳**鞋，**缝缝补补**忙个不停，无数次夜里醒来，在炕**头**做活的母**亲**都**笼**罩在暖暖的光**晕**里，有人**说**母**亲**是孩子心里的佛，那**时**候端坐在炕**头**油灯光芒之中的母**亲**就是我**们**心里的佛。（『人民』15-12-70）
母はいつでも暇さえあればオンドルの上で糸を紡ぎ、服を縫い、布靴の靴底に刺し子を施し、手を休める暇もなく裁縫していた。夜中に目覚めたときに幾度となく、オンドルに座って針仕事をしている母が暖かな光に包まれているのを見て、母親は子供にとって心の中の仏であると言う人がいるけれど、その時オンドルに座ってオイルランプの光の中にいる母は、まさしく私たちにとって心の中の仏だった。（同上）

例（74）の“道个歉”、（75）の“**讨**个没趣”、（76）の“忙个不停”がいわゆる動補構造であるかどうかを検討してみよう。通用固体名量詞“个”は、専用固体名量詞のない名詞“**电话**”の前に用いて“打个**电话**”のように表現し、それが普通名詞であることを表すのが基本的な用法である。“个”の後が語素“歉”（例 74）、単語“没趣”（例 75）、拡大単語“不停”（例 76）であっても、それらが文法的には普通名詞として扱われることを表している[13]。“个”の前後は、一般的な選択連語“吃（个）面**包**”と同様の関係であり、文成分としては「述語＋補語」構造ではなく、「述語＋客語」構造である。

---

12) 高橋弥守彦（2006：125～127）では、“突然，他一个倒仰，跌下了**悬**崖。”（動詞）、“昨天晚上他**们**喝了个痛快。”（形容詞）、“我**给**他**们讲**了个大概。”（副詞）、“他比我大个三四**岁**。”（連語）、“我**们**打棒球把**对**方打了个落花流水。”（成語）などの例文を挙げ、“个”の機能を説明している。

13) 高橋弥守彦（2006：126）では「“个”は連語や形容詞の重ね形の前に用いると、その有する意味を損なうことなく、普通名詞としての機能が加味されます。」と説明し、“他比我大个三四**岁**。”［彼は私より三、四歳年上です。］、“他把那件事忘了个干干**净净**。”［彼はそのことをすっかり忘れてしまった。］などの例文を挙げている。

1.6. 介詞連語補語

李臨定（1993：54）は介詞連語補語について「動詞（または形容詞）の後に位置する介詞連語を、介詞連語補語という。この種の補語も動詞（または形容詞）を補充、説明するものである。」と解説し、以下のような分かりやすい例文を挙げている。

（77）弟弟把**书包**放在桌子上。（『李臨定』p.54）
弟はかばんを机の上におきました。（同上）

（78）他**们**把**钱**都存在**银**行里。（『李臨定』p.206）
彼らは金をぜんぶ銀行に預けました。（同上）

（79）一只羽毛球落在我脚前。（『李臨定』p.206）
バトミントンの羽根がひとつ、私の足のまえに落ちました。（同上）

（80）一**进**屋，我**们**便都坐在沙**发**上。（『李臨定』p.207）
部屋にはいるや、われわれはみなソファーに腰をおろしました。（同上）

筆者は李臨定が介詞連語補語とみなす“在”と方位詞連語（名詞連語）との間に動態助詞“了”が用いられることにより、上掲の介詞とみなされている“在”は、介詞ではなく動詞とみなし、李臨定のこの説を否定している。たとえば、例（77）は同じ文意であっても、“弟弟把**书**包放在了桌子上。”ともいえる。そうすると、“放在了桌子上”の“放在”は、その直後に“了”が入るので、動詞をくみあわせる動結式構造である。ここで実例を検討してみよう。

（81）我**这才**想到，椅子原来是一**对**的，分别**摆**在茶几的旁**边**。（『人民』96-7-87）
この椅子はもともとお揃いで、茶卓をはさんで向かい合っている。（同上、96-7-86）

（82）他只**觉**五雷**轰顶**，就倒在床上了。（『人民』97-4-87）
親父は脳天に落雷級のショックをうけ、気を失ってベッドに倒れ込んでしまった。（同上、97-4-86）

（83）大幕**缓缓**拉开，舞台上所有的灯都关**闭**了，一束光打在了**轻**快上台的歌手冷春月身上。（『人民』96-10-87）
徐々に幕が上がる。ステージの明かりが消え、一筋の照明がかろやかな足どりでステージに向かう冷春月を追う。（同上、96-10-86）

（84）碗碟勺筷无**须**吩咐，就用开水**烫**了又**烫**，然后**齐齐**整整**摆**到我面前。（『人民』97-1-71）
茶碗やお皿も、こっちが黙っていても、何度もお湯で洗ってきちんと並べてくれる。（同上、97-1-70）

（85）他却把自己的两盆**悄悄**地送到朋友的花房里去了。（『人民』89-3-102）
そこで彼は、二つの鉢を友人の花園にこっそり運んだ。（同上）

（86）“**咔嚓**”，“扑通”，小王笑吟吟地坐到了地上。（『人民』96-7-87）
ところが、にっこりと頷いて腰を下ろした王君が、「ボキッ」「パタッ」という大きな音をたてて、床に尻餅をついてしまったのだ。（同上、96-7-86）

例（81）（82）（83）には“在”が使われ、（84）（85）（86）には“到”が使われている。“在”が状態義（例 81）を表す場合は“了”を用いることはできないが、到達義が含まれる場合は、文末（例 82）であっても、“在”の後（例 83）であっても、“了”を用いることができる。

例（84）（85）（86）の“到”は到達義を表しているが、（84）は毎回のことなので、“了”を用いることはできないが、（85）（86）は一回性なので、文末（例 85）であっても、“到”の後（例 86）であっても、“了”を用いることができる。これらの構造の“在”や“到”の後に動態助詞“了”を用いることができれば、“在”や“到”は介詞ではなく動詞である。

2. 補語の再検討

上掲の補語の分析から、補語は二つのタイプに大別できる。一つは機能義により補語となるタイプ、もう一つは“得”を用いて作る補語である。まず、前者の実例を見て検討してみよう。

（87）萍的善意**驱**走了我心中的不快，我也跟**着**站了起来，拉**着**盲人的衣服**说**：“来，你坐下吧！”（『人民』96-12-85）

萍の優しさに不快感を吹き飛ばされた僕は、彼女に続いて席を立つと盲人の袖を軽く引っ張って言った。「どうぞお座りください」（同上、96-12-84）

（88）看完信，大康恍然大悟，他突然**抱**住桑园，在她的**脸**上重重地**亲**了一口。（『人民』97-4-87）

大康はこの手紙で、留守中に何があったのか全てを悟った。いきなり桑園を抱き締めると、彼女の額にあつい、あついキスをした。（同上）

（89）晚会主持人的**话**还没**讲**完，台下就响起了**热**烈的掌声，**还**夹**杂着**一两声口哨声。（『人民』96-10-87）

司会者の案内が終わらないうちに、場内から大きな拍手が起こった。中には口笛の音も混じっている。（同上、96-10-86）

これらの補語“走（例 87）、完（例 88，89）、住（例 88）”は、結果補語と言われているが、動詞とくみあわせる動結構造というほうがよいだろう。客体をとる場合（例 87,88）と、とらない場合（例 89）とがある。基本構造は“**驱**我心中的不快”“看信”“**抱**桑园”“**讲**晚会主持人的**话**”なので、補語と言われている動詞は、いずれも基本義“走（歩く）”“完（おわる）、住（住む）”ではなく機能義を表している。例（89）の“完”は［終わる］と訳され、一見すると基本義のようだが、中国語としてはやはり（88）の“完”とともに機能義［終える］の意味である。

下記の例文に見られるような、位置移動の動詞と趨向移動の動詞とが補語と言われているタイプがある。実例により、それらを検討してみよう。

（90）丈夫开会回来，**将**肥皂**涨**价的**绝**密情**报**在枕**边**告**诉**了胖嫂，她就再也睡不**着**了。（『人民』89-9-98）

会議から帰ってきた夫が、枕辺で、「絶対機密情報」を話したばかりに、ふとっちょおばさんは、もう眠れなくなってしまった。（同上）

（91）就在那只野狼**叼着**一只羊羔儿跑上后山口**时**，**汉**子持根木棒迎**头**截住了，野狼**饿红**了眼，放下羊羔儿就扑向了人。（『人民』93-3-111）

ちょうど、狼が子羊をくわえて後ろの山にかけ上がったとき、男が棍棒を手にその前に立ちはだかった。飢えた目の赤い狼は、獲物を放すと、人間に飛びかかった。（同上）

（92）新婚翌日，阿**浓**妻小洁**买**回了六双拖鞋，放在**门**口。（『人民』94-1-93）

翌日、妻の小潔は六足のスリッパを買って来て、入り口に置いた。（同上、94-1-92）

（93）我看了身**边**的萍一眼，身子往里**挤**了**挤**。萍看了盲人一眼，**对**我**说**：“**让**他坐下吧。”**说**完她就站了起来。（『人民』96-12-85）

僕は隣に座っている萍をちょっと見てから体を寄せると、萍は盲人をちらっと見て「座って貰いましょうよ」と席を立った。（同上、96-12-84）

進行を表す例（90）の“开会回来”の構造は“开会＋回来”、（91）の“跑上后山口”は“跑＋上后山口”である。“回来”と“上”は基本義なので、述語動詞である。行為を表す（91）の“放下羊羔儿”の基本構造は“放羊羔儿”なので、“下”は基本義［下りる］ではなく、機能義［分離する］なので、補語動詞である。進行を表す（92）の“**买**回了六双拖鞋”の基本構造は“**买**六双拖鞋”なので、機能義を表す“回”は補語動詞である。動作を表す（93）の“站了起来”の“站”と“起来”は、ともに基本義を表す述語動詞である。

例（87）から（93）までの補語は機能義により補語となるので、機能義補語と名付け、その下位分類として結果補語と趨向補語の二つに分ける。以下では“得”字補語について検討してみよう。

（94）那几个食客吃了**直**朝我**翘**拇指，**赞扬**我**这**螺炒得好。（『人民』97-1-71）

客はそれを食べると私に向かって親指を立て、旨いぞ！と口をそろえて絶賛した。（同上、97-1-70）

（95）史工程**师**比当年自己考取大学要高兴得多，**满脸**的阳光，**满脸**的春色。（『人民』97-10-75）

エンジニアの史さんは、自分が大学に受かったときよりも嬉しかった。その喜びようはまさに喜色満面、春色満面といってよかろう。（同上、97-10-74）

（96）“我一定要**将**椅子做得既美**观**又**结实**。”（『人民』96-7-87）

「見てろよ、格好よくて丈夫な椅子をつくってやるからな」（同上、96-7-86）

例（94）（95）（96）の“得”字補語“炒得好”“高兴得多”“做得既美**观**又**结实**”は、一般に程度補語と言われている。これらが動詞“炒、做”や形容詞“高兴”の程度を補語“好、多、既美**观**又**结实**”で表しているからである。

（97）晚会一下**进**入高潮，一曲**终**了“再来一个！”的喊声把大礼堂的窗**户**都震得**嗡嗡**作响。（『人民』96-10-87）

交歓会は山場を迎えた。歌が終わると「アンコール！」と叫ぶ声が大講堂の窓をゆすった。（同上、96-10-86）

（98）椅子做成了，**浑**然一体的**红**松**结**构**严丝**合**缝**、玲**珑**剔透，古**铜**色的油漆散**发**出一股芳香，表面光**亮**得像面**镜**子。（『人民』96-7-87）

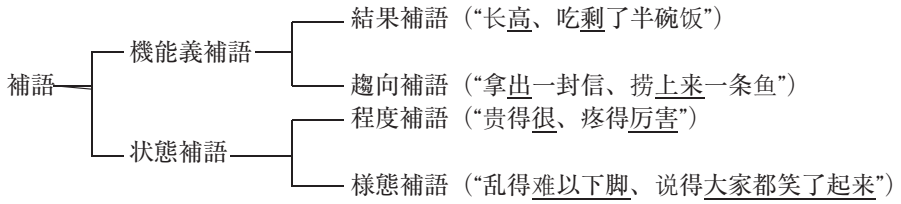
やがて、赤松を材料にしてできた椅子は寸分の隙もなく、赤銅色のペンキはいい香りを漂わせて、表面は顔が映りそうに光っていた。（同上、96-7-86）

例（97）（98）の“得”字補語“震得嗡嗡作响”“光亮得像面镜子”は、一般に様態補語と言われている。動詞“震”や形容詞“光亮”の様態を補語“嗡嗡作响、像面镜子”で表しているからである。しかし、ここで言う様態は程度ともいえる。樊平など（1988：154～157）は程度補語で統一し、輿水など（2009：130～133）は状態補語で統一している。

3. おわりに

筆者の上記の分析によれば、補語は運動のある動詞や形容詞の後に用いて、それらの意味を補う意味的な一側面を表す。この定義に従えば、補語は［表 1］のように大別できる。

［表 1］補語の体系



筆者の分析によれば、補語は大別すると、機能義補語と状態補語の二類に分けられる。それらを下位分類すれば機能義補語は結果補語と趨向補語の二類に分かれ、状態補語は程度補語と様態補語の二類に分かれる。機能義補語とは補語となる語句が基本義ではなく機能義を表しているからである。状態補語とは構造助詞“得”を用いて作る補語のことである。なお、本稿では、二類以上の移動動詞を用いて作る「進行」を表す位置移動の動詞と趨向移動の動詞は、基本義を表すので、補語動詞ではなく述語動詞とする。「動作、行為、結果、状態」を表す場合の位置移動の動詞と趨向移動の動詞は、各動詞本来の意味ではなく機能義を表すので、補語動詞である。また、数量連語補語も“个”字補語も、文意によって、その前に動態助詞“了”を用いることのできる場合もあるので、補語ではなく客語として扱う。ここで言う介詞連語も「介詞＋名詞」で作る補語ではなく、両者の間に“了”を用いることができる場合「述語動詞＋補語動詞＋“了”＋客体」もあるので、動詞の後に用いる「補語動詞“在／到”＋（“了”＋）名詞」と分析する。

言語資料

1．『人民中国』ショートショート　人民中国雑誌社　1988～1997
2．『人民中国』楽らく対訳　人民中国雑誌社　2014～2017
3．『人民中国』ショートショート　人民中国雑誌社　2018～

参考文献

日本語文献

1．荒川清秀（2015）『動詞を中心にした中国語文法論集』白帝社
2．王鉄群（2009）『空間表現の日中対照研究』くろしお出版
3．輿水優・島田亜美（2009）『中国語わかる文法』大修館書店
4．鈴木康之（2000）『日本語学の常識』海山文化研究所
5．鈴木康之（2011）『現代日本語の連語論』日本語文法研究会
6．島村典子（2016）『現代中国語の移動を表す述補構造に関する研究』好文出版
7．朱德熙著 杉村博文・木村英樹訳（1995）『文法講義』白帝社
8．田中茂範・松本曜（1997）『空間と移動の表現』研究社出版
9．高橋弥守彦（2001）「動補連語“走出来”について」『外国語学研究』第 2 号
10. 高橋弥守彦（2008）「“上”と客体との関係について」『外国語学研究第』9 号
11. 高橋弥守彦（2016）「連語論から見る“动词＋上来／去”と客体との関係について」『研究会報告』第 38 号　日本語文法研究会
12. 北京語言学院編（1991）『実用漢語課本［日本語版］2』東方書店
13. 丸尾誠（2005）『現代中国語の空間移動表現に関する研究』白帝社
14. 姚艳玲（2011）『日本語と中国語における自・他動詞表現の対応に関する対照研究』大连理工大学出版社
15. 李臨定著／宮田一郎訳（1993）『中国語文法概論』光生館
16. 呂叔湘主編　牛島德次監訳　菱沼透訳（1992）『中国語用例辞典』東方書店
17. 呂春燕（2012）『中日移动动词的认知语义学对照研究』大连理工大学出版社

中国語文献

1．丁崇明（2009）《现代汉语语法教程》北京大学出版社
2．耿二岭（2010）《汉语语法》北京语言大学出版社
3．姜红（2008）《陈述、指称与现代汉语语法现象研究》安徽大学出版社
4．刘丹青（2003）《语序类型学与介词理论》商务印书馆
5．刘勋宁（1998）《现代汉语研究》北京语言大学出版社
6．刘月华 主编（1998）《趋向补语通释》北京语言文化大学出版社
7．卢福波（2011）《对外汉语教学实用语法》北京语言大学出版社
8．陆庆和（2006）《实用对外汉语教学语法》北京大学出版社
9．樊平 刘希明 田善继（1988）《现代汉语进修教程语法篇》北京语言学院出版社
10. 单宝顺（2011）《现代汉语处所宾语研究》中社会科学出版社
11. 吴念阳（2014）《现代汉语心理学空间的认知研究》商务印书馆
12. 杨德峰（2004）《汉语的结构和句子研究》教育科学出版社